

科目名	教育コーディネーション特論	担当教員	吉村 春美
科目属性	専門科目 B	単位数	2単位（面接0.5単位）
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>現代社会は、超少子高齢化、AIによる職業の自動化、都市化、過疎化の進展、家族形態の変容、価値観やライフスタイルの変化、地域社会等のつながりの希薄化など、様々な現象が進行している。このような社会変容を背景に、学校は子どもの貧困や特別支援教育の対象となる児童生徒数の増加、教員のメンタルヘルスの悪化など、複雑化、困難化する課題への対応を迫られている。</p> <p>文部科学省は、このような状況に対応していくうえで、個々の教員が個別に教育活動を行っていくことでは限界があるとし、校長がリーダーシップを発揮し、学校のマネジメントを強化することで、学校の組織力を向上していくことが必要であると指摘する。また、複雑化、多様化する教育課題に対応する上で、教員だけでなく、心理や福祉等の専門家や専門機関と連携・協働を図る「チームとしての学校」の機能を高める重要性も指摘する。</p> <p>本講は、「チームとしての学校」や多職種連携が求められる現場において、協働の資源となるソーシャル・キャピタル（社会関係資本）と協働を実現するチームワークが機能するメカニズムに関する理解を深め、自身の現場におけるチームワークの向上を試みることを目的とする。</p>			
<p>【授業計画】</p> <p>1. 教育コーディネーションの理論（第1回～第5回相当）</p> <p>テキスト①、②を中心に、教育のコーディネーション、多職種連携が求められる一例として「チームとしての学校」を取り上げ、その政策的背景について理解を深める。さらに、連携・協働の資源となるソーシャル・キャピタルの機能や効果について学ぶ。参考文献については、自分の興味関心に基づき選択する。</p> <p>テキスト①②の内容を踏まえて、以下(a)～(e)の点について自分なりに考察する。（考察するテーマは最低でも1つ選択し考察する。複数のテーマについて考察してもよい）</p> <p>(a) 学校現場におけるソーシャル・キャピタルの役割や効果について</p> <p>(b) 「チームとしての学校」に求められる教育のコーディネーションについて（教育をコーディネートする教員や人材の資質・能力、校内研修や教育課程の在り方など）</p> <p>(c) ソーシャル・キャピタルの「関係的信頼」について</p> <p>(d) 「地域とともにある学校」に求められる教育コーディネーションについて（教育をコーディネートする教員人材の資質・能力、校内研修や教育課程の在り方など）</p> <p>2. 教育コーディネーションにおけるチームワーク（理論編）（第6回～第10回相当）</p> <p>テキスト③、④を中心に、チームとしての学校、教育に関わるステークホルダーや多職種のメンバーの連携や協働を促し、チームワークを機能させるチームワークの在り方について理解を深める。</p> <p>受講生でテキスト④を分担し、分担した章ごとに要約を作成する。分担については、事前に講師より連絡があるため、指示に従う。要約は、パワーポイントA4（横）6枚以内で、担当章の要点をまとめる。1ページには、6行以内、一行は10文字程度にする。</p> <p>要約する際のポイントとしては、読みながらキーワードやキーセンテンスに線を引き、まず全体を把握した上で、特に重要なところをピックアップし、紙の枚数を考慮しながら書いていく。重要な箇所は太字にする、さらに強調したい部分は赤字、下線、囲み線をつけるなど工夫する。イラストや図解を用いてもよい。データ等を紹介したい場合は、小さい文字で書いておき、スクーリングにおけるプレゼンの際に口頭で補足する。</p> <p>3. 教育コーディネーションにおけるチームワーク（実践編）（第11回～第15回相当）</p> <p>「1.教育コーディネーションの理論」と「2.教育コーディネーションにおけるチームワーク」で学んだ知識やスキルを活用し、スクーリングにおいてケーススタディを行う。さらに、自身が機能させたいと考えるチームを事例として扱い、そのチームに対して、これまで学んだ知識やスキルを活用し、チームワークの改善に取り組む。どのような事例に取り組むかについては、スクーリング後、レポー</p>			

ト（チームワークの事例研究計画書）として提出する。取り組んだ結果についてレポートにまとめ、科目修得試験レポートとして提出する。

【評価方法】

なお、評価は以下の項目からなる総合評価で行う。

「事前課題（受講動機・本科目から得たいこと）」：20%

「事前課題（テキスト④要約）」：20%

「科目修得試験（レポート形式）」：20%

【教科書】

- ① 【政策】文部科学省チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について（答申）」（平成27年12月21日、文部科学省のHPからダウンロード
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1365657.htm
- ② 【実証研究】露口健司（編著）（2016）ソーシャル・キャピタルと教育-「つながり」づくりにおける学校の役割-(叢書ソーシャル・キャピタル②)。ミネルヴァ書房
- ③ 【実証研究】吉村春美, 木村充, 中原淳（2014）校長のリーダーシップが自律的学校経営に与える影響過程-ソーシャル・キャピタルの媒介効果に着目して-。日本教育経営学会紀要第56号。pp. 52-67.
- ④ 【実証研究】マイケル・A・ウェスト（2014）チームワークの心理学。東京大学出版会

【参考図書】

- ・文部科学省「「地域と学校の連携・協働の推進に向けた参考事例集」について」平成28年4月28日。文部科学省HPからダウンロード：http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/28/04/1370496.htm
- ・エイミー・C・エドモンドソン（2014）チームが機能するとはどういうことか——「学習力」と「実行力」を高める実践アプローチ。英治出版。
- ・山口 裕幸(2008)チームワークの心理学—よりよい集団づくりをめざして（セレクション社会心理学）。サイエンス社。